

1 題材名 「自分への理解を深める」

2 本時で重点を置いたキャリア諸能力

領域	能力	本時
人間関係形成能力	自他の理解能力	
	コミュニケーション能力	
情報活用能力	情報収集・探索能力	
	職業理解能力	
将来設計能力	役割把握・認識能力	
	計画実行能力	
意思決定能力	選択能力	
	課題解決能力	

3 本時の目標

- ・ 自己理解をしていく上で、様々な手段があることを理解できるようにする。
- ・ 他者から自己分析をしてもらうことで、別の視点から自己理解できるようにする。
- ・ 自己理解が、将来設計へつながることを気付くことができるようにする。

4 展開

		活動内容（活動場面等）	指導上の留意点	
事前		・ 「高校生活のスタート」のワークシート1, 2に目を通しておく。	・ 「高校生活のスタート」のワークシート1, 2を前日までに返却し、本時で使用することを伝えておく。	
本時	導入	1 本時のねらいと、流れを知る。	・ 自分の進路を考えていく上で、まず自分自身をよく知っておかなければならないことを確認する。	
	展開	2 「ジョハリの窓」について理解する。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content;">1955年に米国の心理学者ジョセフ・ルフトとハリー・インガムが発表した「対人関係における気付きのグラフモデル」</div>	・ ワークシート・資料を配布する。資料Aを参照して説明する。 ・ 「高校生活のスタートワークシート1」を参照させて、4つの窓について説明する。 ・ 「未知の窓」が、自己理解を深めていく上で、重要であることを伝える。適性検査を実施している場合はここに入る。	
開			評価（方法） 【キャリア諸能力】	

	<p>3 自己理解の視点について知る。</p> <p>4 自己理解の視点について知る。</p> <p>5 グループ(4人程度)を作り, 1の表に取り組む。</p> <p>6 自分の手元に戻ってきたワークシート1を基に, 「2自分で見た自分の特徴」「3他者から見た自分の特徴」を記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資料Bを参照して説明する。 資料Cを参照して説明する。 先ず個人でワークシートの「自分」の欄に記入させ, グループ内で回して記入させる。 問いに対して, 深く考え込まずに答えることを伝える。 	<p>自己理解の視点や方法について理解している。 (観察) 【自他の理解能力】</p>
まとめ	<p>7 「4自分についての新たな発見」を記入する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 他者から見てもらうことにより, 別の自分が見えてくることを確認する。 	<p>自己による分析, 他者による分析を基に, 改めて自分を見直すことができている。 (ワークシート) 【自他の理解能力】</p>
事後	<p>活動内容(活動場面)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自己理解を基に, 自分の適性を考えた上での参考とする。 	<p>指導上の留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> 適性検査を行っている学校は, その結果も参考資料として教育・進路相談に活用する。 	